

業界団体

Organization

香港エキスポに参加 日本畜産物輸出促進協

日本畜産物輸出促進協議会は、8月16～18日にかけて香港コンベンション&エキシビション・センターで開催された「香港Food Expo 2018」に参加した。

会場では日本畜産物と外国産との違いの理解を促進させ、日本畜産物の差別化を目的として、日本畜産物（牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品）の特長の解説、特長を生かした調理方法の提案や実演、日本文化と一体的な料理の紹介などのプロモーションを実施。

香港で開催される国際食品総合見本市に参加することで、香港をはじめ世界各国の地域の流通、小売事業者らに対し、日本の畜産物の認知度向上、輸出促進が図られた。

同協議会の強谷雅彦事務局長は、日本畜産物輸出に大いに貢献している香港に対する感謝の言葉を述べ、「牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳乳製品について引き続き支持していただきたい」と呼びかけた。

そのあと、ブース内の舞台上でそれぞれの説明と試食が行われ、牛肉輸出部会は牛肉の特長の説明とカットイング、調理実演を行い、試食はステーキ、カルパッチョ、すき焼きを提供。一方、豚肉輸出部会は、日本産豚肉の特長の説明と「白金豚プラチナポーク」「火の本豚」のブランドを紹介し、試食はしゃぶしゃぶ、焼き肉が提供された。

鶏肉輸出部会は、日本産鶏肉の特長とおいしい食べ方を紹介し、試食は水炊き、サラダチキン、焼き鳥、モモ肉塩焼き、とり天を提供。鶏卵輸出部会は、日本産鶏卵と鶏卵加工品について説明したあと、試食には味付けゆで卵、煮卵、茶碗蒸し、卵焼きを提供した。

さらに牛乳乳製品輸出部会からは、日本産牛乳・乳製品の特長とクリームチーズの紹介が行われ、試食には牛乳とクリームチーズが提供された。

また、ブースとは別にジャパンパビリオン中央ステージで17日に行われたプロモーションでは、日本産畜産物が紹介されたあと、和牛のカット実演と調理デモが行われた。会場には約200人が詰めかけ、香港での和牛の人気を強く物語っていた。

和牛のカット実演を行った(株)ミート・コンパニオンの植村光一郎常務取締役は「齋藤健農水大臣に会場へ応援にきていただけたことや、いままで香港では利用されていなかった希少部位の紹介、有効活用がなされていなかった部位の商品化の提案ができたことは大きな成果につながった」と強調した。



〈写真〉 カットイングデモを行うミート・コンパニオンの植村常務